

令和6年度 学校経営計画・学校評価			☑4月4日提出	☑10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	36	四万十	高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	① 予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ② 多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③ 生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④ 各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○ 中山間地域の少人数の学校で、のびのびと学び、自己を成長させたいと願う生徒。 ○ 人や自然の大切さを理解し、人や自然と関わる活動に意欲的に取り組める生徒。 ○ 自然環境コース：自然環境や農林業に興味をもち、自然観察や野外活動に積極的に取り組める生徒。			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○ 四万十探究(総合的な探究の時間)を柱として、各教科学習及び課外活動を関連付け、地域や自然の中で課題を発見し、解決する力を育てる学習を行う。 ○ 学習や活動においては、物事に誠実に取り組むこと、多様な他者と協働すること、自分の考えを表現すること等を重視する。 ○ 習熟度別授業や中高交流授業、遠隔授業等を取り入れ、少人数の講座で生徒一人一人の志望や学力に応じた授業を実践する。 ○ 普通科Ⅰ型は、国公立大学をはじめとする大学等への進学に対応するコースとして、文系・理系に応じて5教科の学びを深め、学力の向上を図る。 ○ 普通科Ⅱ型は、就職や専門学校進学等に対応するコースとして、商業や家庭科科目の授業もあり、資格取得などにも挑戦しながら、幅広い教養を習得する。 ○ 自然環境コースは、「森と川と海のつながり」を学ぶフィールドワークや農林業の実習などをとおして、「人と自然の共生」について学ぶ。							
スクール・ポリシー	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ 自己決定したことを信念や情熱をもって粘り強く貫こうとすることができる主体性、他者の立場に立ちながら自分の思いや考えを伝えることができる共感力、論理的・科学的手法で説明したり解決したりしようすることができる探究心を備えた生徒を育てる。 ○ 学校周辺の地域や自然に親しみ、その維持・存続を願い、行動できる生徒を育てる。 ○ 自然環境コース：実際に自分の身体をとおして獲得する学びを大切に、さまざまな場面において仲間と協働し、工夫を重ねながらとことんやり抜ける生徒を育てる。										

学校関係者評価		
【学力の向上】	評価	【 B 】
少人数校だからこそできる一人ひとりに見合った学びの提供をしてほしい。 学習習慣という部分では、授業外学習時間が学年が上がるごとに減っているのが気になる。 「探究心をどう育てるか」といったテーマの校内研修を実施し、教員の力量の一層の向上が必要だと思う。		
【社会性の育成】	評価	【 B 】
多くの地域行事に参画していると思います。生徒の意識はイベントごとに上下を繰り返すが、意識の高い状態をつないでいくことが大切で、振り返りをしっかり行い、達成感を自覚させ続けることで、自己肯定感を養い、自ら社会に参画しようとする意識や態度を身につけさせることができると思う。		
【チーム学校】	評価	【 B 】
先生方の負担を減らせるよう、もう少し地元にも頼ってほしい。 働き方改革については、部活の顧問をしている先生は現状難しいのではないのでしょうか。 今以上に地域の関係組織や人々と連携し、その能力や資源をいつでも活用させてもらえる良好な状態を作っておくことが必要である。		

		(評価)A: 目標を十分に達成		B: 目標をほぼ達成		C: やや不十分		D: 不十分	
		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力的向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	①C層以上の生徒の増加 ・1年: (58) %→(70) % ・2年: (36) %→(45) % ②授業外学習時間(1時間以上)の増加 ・1年: (67) %→(75) % ・2年: (68) %→(50) % ③将来のための勉強をしている生徒の増加 ・1年: (75) %→(80) % ・2年: (80) %→(90) % ④学校の授業がよく理解できている生徒の増加 ・1年: (83) %→(90) % ・2年: (60) %→(70) %	・少人数指導や各種補習による個別指導 ・Edtech教材(Classi、Google Workspace等)の効果的活用による学習管理や学力の定着 ・基礎力向上週間(年間4回)を軸とした学習習慣の確立と主体的学習態度の育成 ・町営塾「じゅく。」との連携 ・進路目標決定に向けた個別支援(進路検討会の効果的実施等)	B	第1回高知県オリジナルアンケートで「授業がよく理解できている」という設問に対し、1、2年は7、8割が肯定的な回答をしている。授業外学習におけるタブレットの利用も同様の結果になっている。これらの結果を見ると、各教員が効果的な教科指導を試行錯誤しながら行っているといえる。ただ、2学期以降、授業外学習時間が減少する傾向が例年見られるため、指導方法の工夫が必要である。町営塾「じゅく。」とも進路指導面で相乗効果が得られるよう、今後一層の情報共有を進めていく必要がある。	・今までの取組の継続 ・授業外学習習慣の定着に向けて各教科で決めた方法で実践していく。 ・町営塾「じゅく。」との情報共有によって、効果的な進路指導につなげる。	A C層以上の生徒は2年生は7名から15名と大幅に増えた。D3層は1年0名、2年は半減し2名になっている。授業外学習時間も2年生は倍増している。一方、授業理解に関しては、肯定的意見が6～7割と高めではあるものの大きな伸びには至っていない。必要に応じてICTを活用した丁寧な指導を継続しているが、今後も根気強い指導が必要である。 【評価指標】 ① 1年58.3% 2年60% ② 1年41.7% 2年60% ③ 1年66% 2年 87.5% ④ 1年66.7% 2年 70.8%	・ICTを必要に応じて活用し、丁寧かつ効率的な教科指導を実施していく。 ・進路指導と絡めて学習への意識づけを図る。
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	⑤学校生活が充実している生徒の増加 ・1年: (47) %→(60) % ・2年: (92) %→(90) % ⑥自分のことが好きである生徒の増加 ・1年: (83) %→(90) % ・2年: (60) %→(70) % ⑦将来の夢や目標をもっている生徒の増加 ・1年: (50) %→(70) % ・2年: (72) %→(80) %	・学習記録ノート「スコラ」及びICTを活用した自己管理能力の育成 ・総合的な探究の時間における探究活動、SST等による自己理解や人間関係構築力の育成 ・地域行事やボランティア活動等への参加を通じた地域理解の促進と自己有用感の醸成 ・学校行事等による、より良い関係づくりの促進	B	正副ホーム担任の丁寧な指導で「スコラ」への記入はほぼ定着している。それを通じて自己管理能力の向上を一層図る必要がある。1年生で学校生活の充実度が低いが、2学期以降、学校行事や地域行事が増えるので、それらを通じて、自己有用感やコミュニケーション力を高められるように配慮していく。	・今までの取組の継続 ・各行事において関わる教職員から生徒への積極的な声がけ等により、生徒のモチベーションが一層高まるよう配慮していく。	B 1、2年とも学校生活が充実している生徒が9割を超えている。ただ、将来の夢や目標を持てていない1年生の割合は変化がない。総探や地域活動を通じて社会経験を積ませることも取り組んできたが、一部の生徒に参加が偏りがちになる傾向があった。 【評価指標】 ⑤ 1年91.7% 2年91.6% ⑥ 1年66.7% 2年75% ⑦ 1年50% 2年83.3%	・自主的な参加も必要だが、ある程度全校生徒が参加できる仕組みを作り、体験をさせることで、自主的な参加へ結びつける。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	⑧地域や社会について考えている生徒の増加 ・1年: (50) %→(70) % ・2年: (68) %→(75) % ⑨地域や社会のために行動している生徒の増加 ・1年: (50) %→(70) % ・2年: (40) %→(70) % ⑩地域連携活動への参加生徒数 のべ(60)名	・総合的な探究の時間や自然環境教育を通じた地域社会との関係の強化 ・地域行事やボランティア活動等への参加による社会参画意識の醸成	B	地域・社会に関して考える機会はあるが、実際に行動に移せているのが一部の生徒にとどまっている現状が見られる。	・今までの取組の継続 ・各授業において関わる教職員から生徒への積極的な声がけ等により、生徒のモチベーションが一層高まるよう配慮していく。	B 評価指標でみると1、2年とも数値に大きな変化が見られない。学校の活動が十分に生徒の考えや行動に変化をもたらすほど、意識や意欲を高めるものになっていない部分がある。 【評価指標】 ⑧ 1年41.7% 2年70.9% ⑨ 1年75% 2年66.7% ⑩ のべ48名	・数値が低くなりがちな1年生を地域とつなぐ仕組み作りが必要である。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	⑪授業における思考・まとめ・発表機会の設定 ・1年: (92) %→(95) % ・2年: (88) %→(95) % ⑫学習におけるタブレット端末活用の推進 ・1年: (75) %→(85) % ・2年: (68) %→(80) % ⑬教科間連携授業の実施回数 (6)回	・授業における成果発表の機会の設定と参観の呼びかけの徹底 ・他教科と連携した授業構想に対する意識の向上(公開授業期間における教科間連携、SDGs等をテーマとする課題探究学習の設定等)	B	各教科とも生徒の発表機会の設定やタブレットの活用はしっかりとできており、肯定的回答も9割前後に達している。ただ、自分から積極的に学ぼうとする姿勢には弱さが見られる。教科横断的な授業も一部の教科間で行っているが、授業への関心を高め、学習意欲を喚起する取組は必要である。	・今までの取組の継続 ・公開授業期間などを利用し、教科で連携した授業を実践し、それぞれの教科の特性を生かした授業で生徒の意欲を高める。	B 各教科の取組で生徒が主体的に考え発表する場面が設定されている。教科横断的な授業も他教科の担当同士で打ち合わせをしたり、総探の授業でアドバイスをしたりする機会があった。 【評価指標】 ⑪ 1年83.3% 2年91.7% ⑫ 1年66.7% 2年91.6% ⑬ 2回	・教科横断的な授業としてTTのような形態での実施は難しいため、教材研究・共有面での連携を充実させる。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○連携型中高一貫教育の充実 ○地域みらい留学生の受け入れ ○自然環境教育の推進 ○地域連携活動の推進 ○学校情報の効果的な発信	○連携中学校(大正・十川)からの本校志願率 ・(17) %→(50) % ○地域みらい留学 ・見学者数(20)名→(20)名 ・志願者数(8)名→(8)名 ○学校HP、公式Instagram等の更新回数 ・月(30)回以上	・連携中学校との生徒間交流の機会の増加 ・自然環境教育や地域連携活動の充実による学校の特色化の促進 ・全国大会出場を目指すソフトボール部や中高連携による音楽部の取組の強化と発信 ・寮生と地域とのつながりの強化 ・円滑な情報発信のための校内体制の整備	B	中高の生徒交流として中高交流マッチを実施した。こうした一過性の交流にとどまらず、継続的な交流機会の設定も必要である。自然環境教育や部活動においても活発に活動をしているので、そうした活動の情報発信に課題がある。	・今までの取組の継続 ・中高の生徒間交流のあり方について生徒会中心に検討していく。 ・校内での様々な活動の情報発信への各教員の役割の明確化を図る。	B 地域みらい留学関連の見学者は18名おり、県外からの関心は一定程度継続している。 連携中学校との交流も細かな工夫をしてきている。 情報発信は校内体制をある程度整備したが、年間を通じて月30回という目標には至らなかった。	・情報発信への生徒の参加をさらに促す。 ・連携中学校(特に十川中学校)との連携強化に努める。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 ・会計年度任用職員も含め、法令遵守の意識喚起、不注意事案発生の防止 ○校内研修の実施回数 (4)回 ○不祥事防止委員会の実施回数 (4)回 ○寄宿舎舎監連絡会 (3)回	・個人情報を取り扱う際の事務処理体制の確認 ・既存の会議等での日常的な啓発・声かけ ・定期的な面談等、相談しやすい環境づくり	A	不祥事防止に関してチェックシートへの回答や校内研修を通じて注意喚起を行うことができた。2学期は行事も多く、3年の進路指導も重なることで業務量も増えるので、より一層気を抜かず、注意喚起に努める必要がある。	・今までの取組の継続 ・2学期以降も継続的な不祥事防止に向けた取組を検討し、実践していく。	A 日頃の注意喚起と校内研修などによって現時点で本校では不祥事となる事象は発生していない。 【評価指標】 委員会、校内研修ともに4回実施 舎監連絡会3回実施	・日頃の注意喚起の継続 ・校内研修の内容をさらに充実させる
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○学校行事等の運営の見直し ○各分掌間の業務の平準化 ○夏期休暇等の確実な取得 ○定時退校日の設定の奨励	○各月の時間外勤務の平均時間 ・(35)時間以下 ○学校評価アンケートにおける否定的回答 ・「業務の平準化」: (9.1) %→(5) %以下 ・「勤務時間管理」: (0) %→(0) %以下 ○夏期休暇の取得率 (100) %	・学校行事の実施時期・内容の見直し ・協働性や同僚性の推進と個業の削減 ・学校閉校日の設定 ・職員会議資料等のペーパーレス化 ・ICT機器を活用した教材の共有、アンケートの実施・集計	B	各月の時間外勤務の平均時間は目標をクリアしているものの、主に部活動指導、分掌業務によって、月45時間超の教員が毎月複数名出ている状態である。解消は難しい面もあるが、メリハリの効いた勤務になるよう声かけをしていく。	・今までの取組の継続 ・学校行事や様々な業務に関して、内容の見直しや来年度に向けた検討もしていく。	B 全体としては、時間外勤務の平均時間は約12時間であったものの、一部の教員に業務が偏る部分もあった。 教職員の負担軽減と効果的な各行事、業務の遂行に向けて、来年度の年間行事の見直しを進めている。 【評価指標】 平準化 33.3% 時間管理 20% 夏期休暇 ほぼ100%	・学校行事の精選および内容の整理 ・分掌、業務分担の見直しを継続する。